

令和7年度 山形県立南陽高等学校 学校評価書 (自己評価・学校関係者評価)

学校教育目標	「自修」: 自ら学ぶ意欲を育て、確かな学力を身につけさせる。 「自律」: 自ら考え、主体的に行動できる力を育てる。
	「自助」: たくましい心身と豊かな人間性を育てる。 「和敬」: 郷土を愛し、社会に貢献する態度を育てる。
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	1 自ら学ぶ意欲を育て、変化の激しい社会で自立して生きるために必要な学力を育成します。 2 他者と協働して様々な活動に取り組むことができるコミュニケーション能力を育成します。
	3 命を慈しみ、思いやりの心を持って自他を尊重できる豊かな人間性を育成します。 4 地域や郷土を愛し、より良い地域づくりに主体的・意欲的に取り組む態度を育成します。

達成度	A 達成
	B 概ね達成
	C やや不十分
	D 不十分

重点目標	1 主体的な学習を促す授業の充実 2 自主性を育むキャリア教育の構築 3 視野が広く、地域社会に貢献できる人間の育成
	4 「いのち」を大切に作る安全・保健指導 5 地域社会に開かれた信頼される学校づくり

自己評価					
重点目標	評価項目	具体的方策や指標・基準等	達成度	目標の達成状況・達成にむけた取組み状況と分析	次年度に向けた課題と対応策
1	①生徒の主体性や学びに向かう意欲・態度を育む学習活動の研究・推進 ②観点別学習状況の評価の在り方を研究し、指導と評価の一体化を図る ③教育活動全体における生徒の学校図書館の利用促進、読書習慣の確立	①生徒の基礎的・基本的事項の定着を図り、個別最適な学び・協働的な学びを実践。また「主体的・対話的で深い学びの実現」が図れるような雰囲気醸成。	B	・研究授業を実施しながら、教科横断的に本校の学びのスタイル構築を担当者ごとに行った。 ・教科会や職員全体で取り組む総合的な探究の指導などを通じて、各自の教育実践をアップデートしていくことができています。 ・年間を通じて評価の在り方を研究するよう心掛けた。指導と評価の一体化を実践する学校づくりに向かっていきたい。 ・一人一台端末を活用することが定着し、各自の学習活動に活かされている。セキュリティや使用マナー等にも配慮していきたい。 ・生徒のニーズに合わせた対応をすることができた。 ・年間を通して、社会への窓口になるよう活動した。 ・図書委員研修会で図書選定や紹介などを行った。 ・日常の活動を責任を持って行うことができた。 ・今年から読書課題のスケジュールを変更し、審査がスムーズに行えた。	・日常における学習時間の確保を意識させながら、より個別的に学びを進展させていくことができるか考えていきたい。 ・対話的な深い学びの在り方を考えていく。 ・生徒の学習の様子を見とりながら評価につなげる方策を充実させていきたい。 ・業務効率化にスムーズにつながるよう取り組む。 ・リモート授業など、予想される取り組み内容の整理を準備しておきたい。 ・図書の貸出しを増やせるような取り組みの展開。 ・図書委員会が主体的に取り組むことができるよう指導していきたい。 ・教科、学年と連携した活動(かるた大会・教養講座等)を通じて図書館活動に関心を持たせる。
		②生徒に学習の振り返りを促すとともに、授業者は評価を通じて指導法を見直し、自らの授業改善を進める。	B		
		③情報活用能力を育成し、一人一台端末を用いた効果的な学習活動を推進する。	A		
		④特別な支援を要する生徒の学びを保障する、様々な教育環境の整備に取り組む。	B		
		⑤図書館を書籍等の資料とWebの両方の媒体を活用できる学習拠点として整備し、各授業時の活用を推進する。蔵書の整備・拡充を図る。	A		
		⑥委員会活動の活性化や広報活動の計画的な実施、読書課題の時期・内容等の検討により、読書への関心を高め、本に向き合う機会の充実を図る。	B		
2	①3年間の指導計画の継続的な見直しと系統的な指導の実践 ②地域探究学習等を通して、課題解決能力を育成し、自己の在り方生き方に対する考えの深化を図る ③社会人講師による講話や体験活動等を通じた視野の拡大、社会人としての見方・考え方の育成	①資料・情報提供の充実、社会人講師による講話や体験活動により、生徒が主体的な進路選択を行えるような指導を行う。	B	・「進路決定のために、必要な情報や資料が提供されている」「講話や講演会は、自分の在り方・生き方を考える良い機会になっている」といった意見が生徒から多く寄せられており、生徒たちが満足いくものを提供できた。昨年度から時期や内容の見直しを行ったことで、肯定評価の割合も上昇し、成果が出たと考える。 ・総合的な探究の時間(地域探究・課題探究)では、「意欲的に取り組んでいる」といった声が生徒から多くあり、生徒たちにとって、総合的な探究の時間に意欲的に取り組むことで、自信につながり、自己肯定感の上昇にもなっている。	・どのようしたら保護者講演会の参加者を増やすのが課題である。3学年のPTA総会時の進路説明会でも少なかった。また、1学年では今年度新しく9月に生徒・保護者が一緒に聞くような講演会を実施したが、水曜日の7時間目の時間に実施したため、保護者の参加が少なかった。参加しやすい時間にするなど見直しの必要がある。 ・総探では今後2年間で、南陽高校スタイルが確立するよう取り組む。
		②職員研修会の実施や全職員による個別指導の充実により、生徒の主体的な進路選択のサポートをし、各学年系統的な指導となるよう努める。	B		
		③地域人材の協力を積極的に得ながら、生徒たちが人とのつながりを実感し、視野を広げられるような指導を行う。	B		
		④自己の在り方や生き方に対する考えを深められるような地域探究学習を推進する。	B		
3	①地域探究学習を通じた地域理解と郷土愛の育成、地域貢献意欲の向上 ②地域人材を活用し地域と連携した地域探究学習の推進 ③生徒会活動・部活動・学校行事の実践を通して主体的に行動する力を育成	①地域探究学習を通じて、郷土への誇りと愛着を育み、地域に貢献する意欲が醸成されるよう指導する。	B	・探究学習等において地域人材を複数回活用することができた。 ・教職員からは「視野が広く、地域社会に貢献できる人間の育成するための活動」ができていたとの評価が多かった。全職員がどこかの学年の総探に関わり、地域人材の協力を得るような活動をした結果である。 ・執行委員の人数を縮小し、責任感を持たせることができています。定期的にランチミーティングを開き、仕事の内容を皆で共有している。	・地域人材の協力を継続的なものになるよう、全教員で取り組む。 ・生徒一人一人が達成感を得られるような工夫を。 ・各委員会の活動をより活発化させ、生徒の主体的な活動を後押しするため、2ヶ月に1回程度委員会を開催したい。
		②地域人材の協力を積極的に得ながら、生徒が人との繋がりを実感し、課題解決を主体的に考え発表する力を育成する。	B		
		③生徒会活動や学校行事、社会参加活動を充実させることで、自主性や企画遂行力を育てつつ、生徒一人一人が達成感を得られるよう指導する。	B		
4	①学校安全計画に基づいた防災訓練の実施による安全教育の充実 ②学校保健計画に基づいた健康診断や各種講話の実践、適切な人間関係づくりや「いのち」「健康」の大切さを考えさせる指導の充実 ③スクールカウンセラーとの連携による生徒に寄り添った教育相談・支援の組織的な推進	①学校安全計画に基づき、防災訓練の効果的な実施等による安全教育を充実させる。	B	・4月の防災に関する職員研修会、6月の「未来を守る防災ワークショップ」、春、秋2回の防災訓練を、概ね効果的に実施。 ・初めて保健講話を年2回実施した。生徒の感想から、自分自身の生活や健康について見直すことができたことがうかがえた。 ・適応支援委員会の開催頻度を増やし、昨年度よりも即時的な対応が可能となった。 ・スクールカウンセリングにおいて「最重点校」の指定を受け、年23回のカウンセリングを計画した。カウンセリング後には、毎回SCとコンサルテーションを行い、情報共有を図った。また、SSWIについては、生徒・保護者への相談対応及び生徒向け講話で活用した。	・「防災ワークショップ」をどう継続、発展させていくか、検討していく。 ・10月の秋季防災訓練は、昨年に続き抜き打ちで実施し、生徒の91.3%が肯定的な評価をした。次年度も継続し、先生方からいただいた様々なご意見も参考にしながら、より効果的に実施できるよう工夫したい。 ・スクールカウンセリングについては、来年度も、今年度と同様の日程及び講師による保健講話を継続して実施する予定である。
		②外部講師による各種講話とその振り返りを通して、自己と他者を尊重する気持ちを持って適切な人間関係を築くことや「いのち」「健康」の大切さを考えさせる指導をする。	B		
		③学年と連携して不適応傾向にある生徒への初期対応を確実に行うとともに、適応支援委員会を通して状況改善に向けた取り組みを組織的に行う。	B		
		④スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、生徒に寄り添った教育相談・支援を組織的に推進する。	B		
5	①地域の各種行事への参加やボランティア活動の推奨、地域に貢献する学校づくりの推進 ②保護者等や地域への教育活動の公開や各種メディアを利用した情報発信の推進	①地域の各種行事やボランティア活動に積極的に参加している。	B	・地域の各種行事やボランティア活動に積極的に参加する生徒が多かった。また、南陽高校市役所部や南陽みらい議会に参加した生徒が牽引する形で、地域との関わりを学校全体で共有できた。 ・公式インスタグラムの運用については、各分掌の協力を得て軌道に乗り始めてきた。 ・アンケート機能を使った学校評価アンケートの実施や、各種行事・会議の出欠確認など、事務作業の効率的な運用ができています。	・地域の各種行事やボランティア活動への参加がより生徒主体になるよう、体制の見直しを図る。 ・学校の公式ホームページや公式インスタグラムにおいて、本校生だけでなく地域の方々にとって魅力ある投稿も増やしたい。
		②保護者等や地域に教育活動を公開し、学校ホームページとInstagramで情報発信している。	B		
		③さくら連絡網の効率的な運用により連絡事項を迅速かつ正確に伝達している。	B		
6	身に付けるべき資質・能力の数値化	グラデュエーションポリシーや学校の重点目標を理解し各分掌や学年の取り組みに落とし込む。また具体的な目標のため数値化を図る。	C	・年度当初の会議で今年度の取り組みの目標について丁寧に話をし周知した。各分掌や学年の取り組み、個人の評価シートにも反映したものを提出いただいた。	・数値化まで至らない項目があった。評価を明確にするためにも数値化への取り組みの徹底を図る。

学校関係者評価	
意見・要望・評価等	
<p>・今後のPTA活動のあり方にも変化が必要。コロナ禍以降、保護者の学校活動参加の意識がかなり消極的で役員になりたいという方はほとんどいないと思っている。役員の選出方法、会長の交代時期など、少しずつ変革したい。 ・冬場ですが、気温差があり固まっていた雪がぬかるみかなりスタックする車が多い日があったり、積雪が多く学校に入るのに大変なときがあった。登校時の安全確保の観点から気になった。 ・令和7年度の重点目標にある「主体的な学習を促す授業の充実」と「主体性を育むキャリア教育の構築」が実現されている。教職員が丸となって生徒一人ひとりを理解し、様々な発表会や大会に挑戦させ、その結果も出ている。 ・探究学習を学年ごとに発展させていくことの報告を受けた。1年では「地域を知り、地域課題に向き合う」、2年では「その課題をより調査し、解決方法を考える」、3年では「NANYO学に、その考え方を繋げていく」。この流れは、探究学習でのサイクリカルな学びになるので、是非実現してほしい。 ・探究活動・市役所部・みらい議会といった取り組みに関する取材を通して、やりがいや口にする生徒たちに接し、頼もしく思う。地元で働く人、卒業生との交流を機に未来を語るができる若者を1人でも多く輩出していただきたい。 ・SNSの発達、多様性の時代にあって、自分自身を見つめ言葉にし、表現する力が求められていると感ずる。相手の考えを知り、理解を深めることも同様に大切。山形新聞に若者の声として投稿(匿名でなく)するのもいい。 ・進路指導では、結果的に実施内容、方法の変化は少ないとしても、観点整理と道すじの明確化につながっている。 ・南陽高校で可能な部活動の在り方を探ってみて。若手の教員に期待。 ・保護者の協力を得られ教員の負担を減じることができる領域も。 ・学習環境改善を全体的に考えてほしい。学校は暑くて、寒いところ、通うのが難しいところ・・・が変わってほしい。 ・制服としての着かたを、というのが地域の目録。精神性が身だしなみには反映される。凛々しく清潔な雰囲気でもいいね！そんな地域からの声を期待。</p>	